

4 部室の変遷 ～時の流れ～



左側は、昭和30年代の運動部ボックス（部室）の写真。先輩方からお聞きした話によれば、当時は現在の場所とは違い、講堂東側の運動場の隅にあって、サッカー・バスケット・ラグビー・ソフトボールなどの部室として使われ、狭く暗い部屋で、交代で着替えていたとのこと。部室の原型を辿る貴重な写真。

中央は、昭和61年頃の運動部部室の写真。木造小屋からブロック造建物へ進化。この写真を見るだけで現役当時の思い出が一挙に蘇る。扉を開けた瞬間の独特の汗のにおい、先輩から譲り受けたユニフォーム、棚に雑然と積まれた持ち帰り厳禁？のお宝の山、何の目的で開けられたのか何となくわかる複数の壁の穴（十円玉大のものが複数箇所、その後埋め戻された？）等々何でもあり（在り）。少し張りつめた感のある教室とは違い、放課後独特の開放感も相俟って、周囲も含めて比較的自由で居心地のいい空間。青春の思い出が詰まった場所。

そして、右側は最近撮影した現在の写真。場所や外見は変更なし。部屋の中を見ることはさすがに遠慮。扉や外壁がきれいに塗り替えられ、周囲も整備されており、時の流れと一抹の寂しさを感じた次第。（昭和58年卒 武内 克之）

5 樹木の成長に見る時間の経過



朝日高校といえば、校門を入ってすぐ出迎えてくれる大きなクスノキや、奥の方に広がる林のような一帯など、たくさんの木々が豊かな緑を育てている光景を思い浮かべる方も少なくないかもしれない。こちらの2枚の写真はそんな木々が約50年の間にたくましく成長している姿を取めたもの。場所は柔道場の奥。昭和46年の写真を手に実際に現地に行き、同じアングルから眺めた時、一瞬どの木が写真と重なり合うのか分からなかったのだが、よく見ると奥に斜めに伸びる1本の木が、同じ形のまま太さが成長していることに気づき、感動した。約50年の間に校舎も在校生も移り変わっていったが、その間も木々は静かに時代の移ろいを見守っていたのだ。ちなみに、校門脇のクスノキをよく見上げると、プレートが幹に食い込んでしまっている。これは実際に見るのが面白い！（平成17年卒 川高 ゆき）

6 グラウンドからの校舎群



階段校舎の管理棟部分が建設前の昭和46年に撮影されたのがこの写真。昭和60年卒の私が記憶しているグラウンドからの風景は、現在よりもむしろ昭和46年のものに近く、昭和46年の写真に加わったものは新たに加わったのは百周年記念館と今は撤去済みのサーキットトレーニング施設ぐらいであろうか。なお、トラック内の草は、多少残っていたかもしれないが、これほど茂ってはいなかったような記憶がある。

一方で、現在の写真を見ると、卒業後になくなってしまったのは、今となってはとても存在感の大きな階段校舎、鳥城高校・合併教室などの木造校舎や夜間照明用の鉄塔等とでも多く、私の在校当時とはかなり異なる印象を受ける。

グラウンドは、体育授業、運動会や仮装行列などで全校生徒が利用したものであり、そこからの風景は様々な思い出とともに心に刻まれている。グラウンドが練習・試合の場所であった運動部員にとってはなおさらであろう。

なお、私が入学した年には、百周年記念館でアイスクリームが販売されていたが、その袋のポイ捨てが多かったという理由で、翌年から販売が中止されたことは思い出深い。確か、ポテトチップスも売られていたように記憶しているが、現在はどうなっているのだろうか。（昭和60年卒 日野 克彦）